

銀座が
カフェ？

銀座で
子どもたちと
遊ぶ？

銀座で
乾杯？

銀座で
ピクニック？

銀座が
公園に？

楽しみ、わくわく まちなかづくり！

パークタウン ストリート

銀座で
フリマ？

銀座で
ライブ？

歩いて楽しいまちづくり



銀座通り歩行者優先道路化社会実験報告書 概要版



1 これまでの経緯

周南市では平成 25 年 3 月に中心市街地活性化基本計画を策定し、「まちのストックを活かした、豊かな心を育む『公園都市（パークタウン）周南』」をまちづくりの理念として掲げ、様々な事業に取り組んでいます。

その一つとして、銀座通りを中心としたまちなかの通りを歩行者にとってより快適で歩きやすく、居心地の良い通り、すなわち「歩行者優先道路」化することについて検討を進めています。

歩行者優先道路化に関するこれまでの経緯を以下に整理します。

		経緯
平成 23 年	11 月	歩車共存のまちづくり市民ワークショップ開催（～翌年 2 月まで 計 3 回）
平成 24 年	2 月	歩車共存のまちづくり社会実験実行委員会開催（～翌年 5 月まで 計 7 回）
	5 月	歩車共存のまちづくり社会実験実施（5 月 28 日（月）～6 月 3 日（日））
	12 月	平成 24 年度歩行者優先道路化検討委員会開催（～翌年 5 月まで 計 3 回）
平成 25 年	3 月	周南市中心市街地活性化基本計画策定、内閣総理大臣認定
	12 月	平成 25 年度歩行者優先道路化検討委員会開催（～翌年 4 月まで 計 3 回）
平成 26 年	8 月	銀座通り歩行者優先道路化社会実験実行委員会開催
	9 月	平成 26 年度歩行者優先道路化検討委員会開催（～翌年 2 月まで 計 2 回） 銀座通り歩行者優先道路化社会実験実施（9 月 28 日（日）～10 月 5 日（日））

社会実験の目的及び獲得目標

■社会実験の目的

歩行者優先道路化は、歩道を広げることにより、歩行者にとって快適で歩きやすくするとともに、居心地の良い空間を創出し、まちの回遊性の向上や賑わい創出につなげていくことを目的としており、今回は、これらの取り組みを場所と期間を限定して試行的に実施し、その効果や影響を検証するために社会実験を実施しました。（将来的に片側交互通行や一方通行とすることを目的としたものではありません。）

■社会実験の獲得目標

①歩行者優先道路化道路の空間のあり方の検証

魅力的な空間づくりや回遊性の向上を図るため、ポイントとなる箇所でそのシミュレーションを行う。

【考え方1】現状の交通体系をできるだけ維持させたまま、歩行者にとって快適な空間をつくり、体感していただく。

【考え方2】市民にとって、なるべくシンプルでわかりやすい形とするために、区間を限定して社会実験を実施する。

②集客効果と周辺交通への影響の検証

上記の空間をつくることにより、どれだけ集客効果があるかを測定するとともに、周辺交通への影響を検証する。

③中心商店街での回遊性の促進・検証

上記の空間を体感してもらいながら、中心商店街内での回遊性を促すような取り組みを実施し、その効果を検証する。

社会実験の実施期間

・平成 26 年 9 月 28 日（日）8 時 ～ 10 月 5 日（日）21 時まで

社会実験の実施内容

(1) 賑わい空間の創出・演出

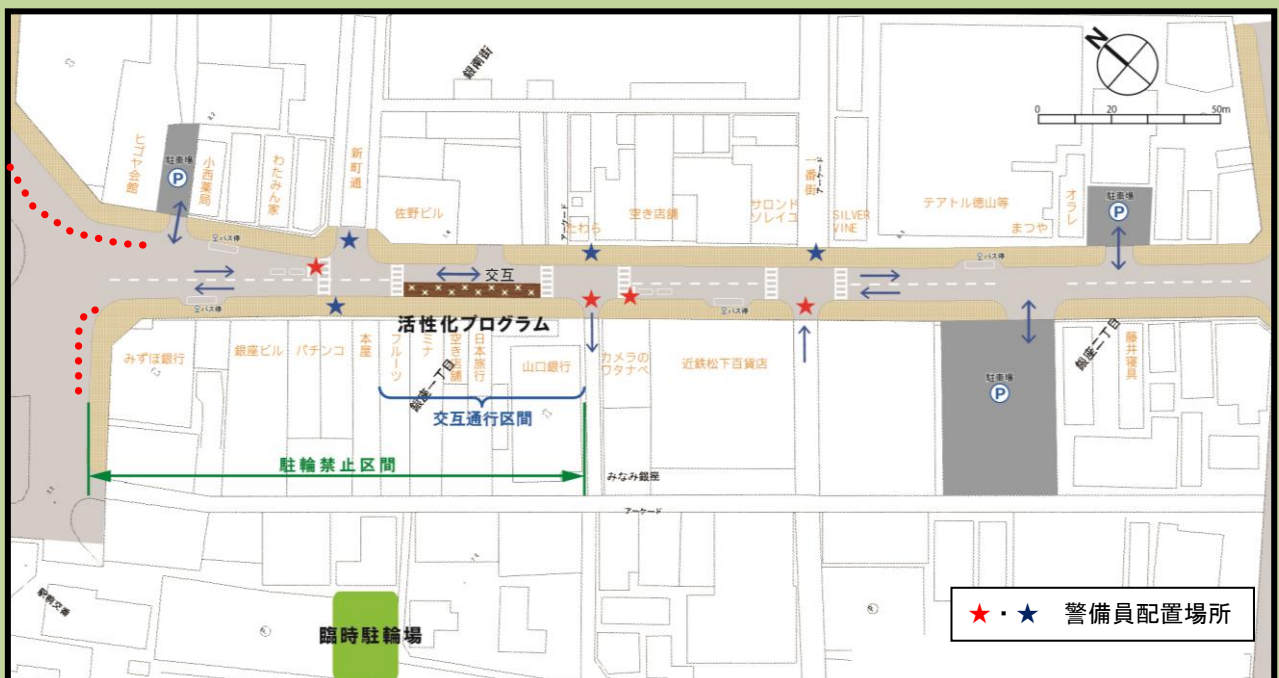
- ・片側交互通行によって生まれる車道の空間と銀座通り北側沿道駐車場において歩行者にとって居心地の良い空間の創出を演出し、沿道の賑わいづくりを行いました。
- ・道路修景等として、ウッドデッキを設置、その他観葉植物、移動式テーブル、チェアなどを配置し、憩いの空間やイベントスペースとして活用しました。
- ・期間中、中心市街地の賑わい及び回遊性向上に資する活性化プログラムとして、28 団体による延べ 54 イベント（連日開催を含む）を実施しました。（詳細 4 ページ参照）
- ・回遊性向上の取り組みとして、周辺商店街の 23 店舗が参加してのスタンプラリー、テイクアウトメニューの提供を行いました。

(2) 交通規制

- ・交通規制は上記の実施期間中 24 時間実施し、警備員による誘導等を行いました。
- ・現状の交通体系の中で、上記の空間をつくるために、社会実験実施期間中、銀座通りの一部区間（鳳鳴館前から山口銀行前）を片側交互通行による「交通規制」を行いました。
- ・通行する車の速度抑制のため、仮設ハンプを設置しました。

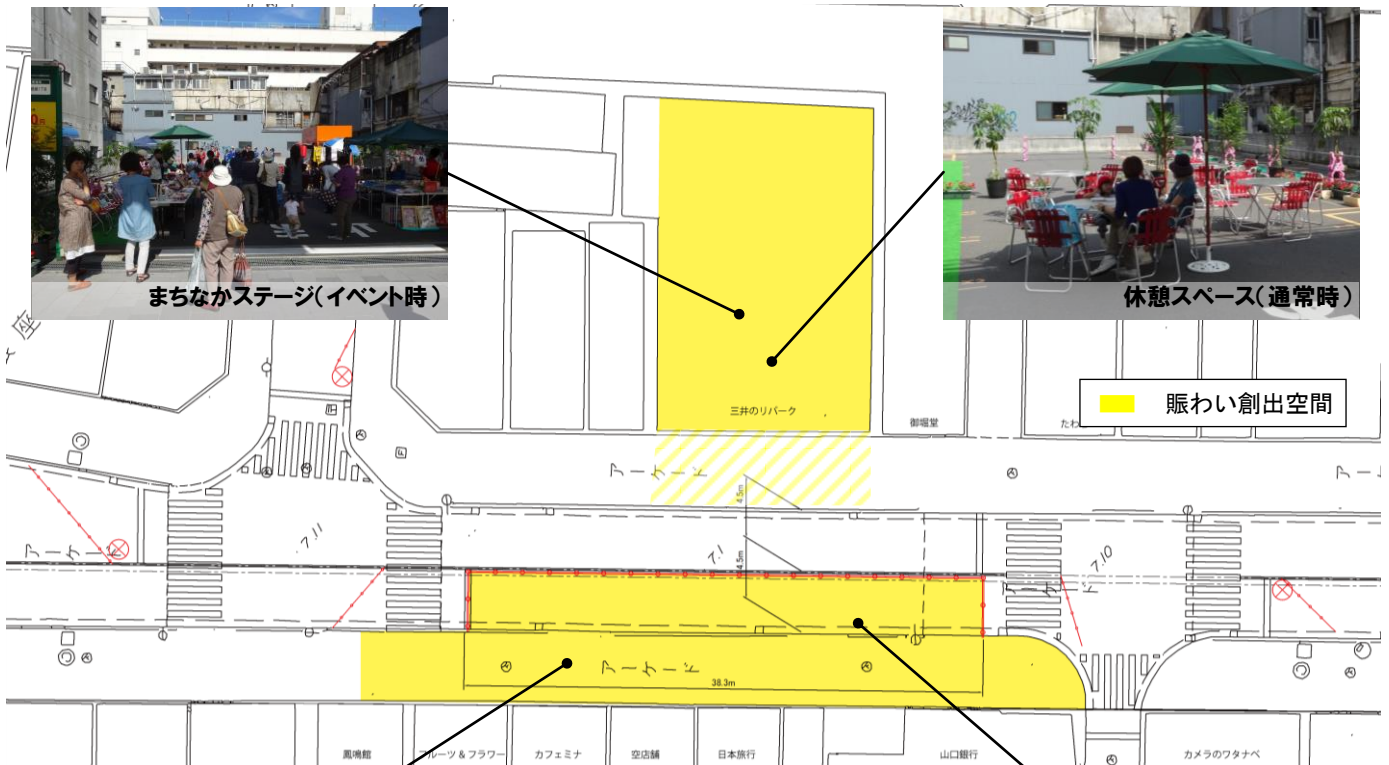
(3) 駐輪場対策

- ・歩道上の放置自転車対策として、臨時駐輪場を 1 箇所配置しました。



3 社会実験の様子

片側交互通行の様子



ウッドデッキの憩い空間の様子

北側駐車場の賑わい演出空間の様子

ステージ系



太極拳 (9/30、10/3)

ステージ系



ミニコンサート (10/5)

ステージ系/
販売系



よさこい・フリーマーケット (10/4)

ステージ系



和太鼓演舞 (9/28)

ステージ系



ライブ (9/29)

ステージ系



アコースティックライブ (10/5)

活動系



大道芸 (10/4)

活動系



サルサダンス (10/3)

体験系



おもしろ大道芸 (10/4)

体験系



バルーンアート (10/3~10/5)

体験系



木工ワークショップ (9/28、10/5)

販売系



まんじゅう販売等 (10/5)

ウッドデッキ及びその周辺の賑わい演出空間の様子

5 各種調査

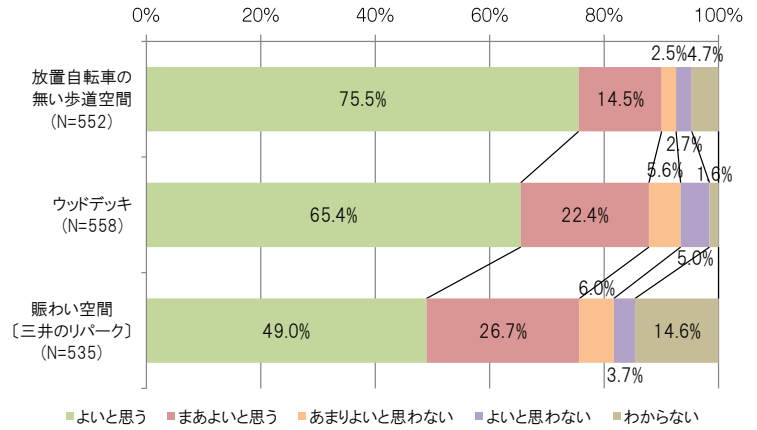
社会実験中の来街者、活動実施団体、周辺商店街、交通事業者に対するアンケート調査及び期間中・期間後のそれぞれ平日と休日に交通量調査（自動車交通量・歩行者等通行量）を行いました。

来街者及び活動実施者からはウッドデッキなどの空間に対して高い評価が得られました

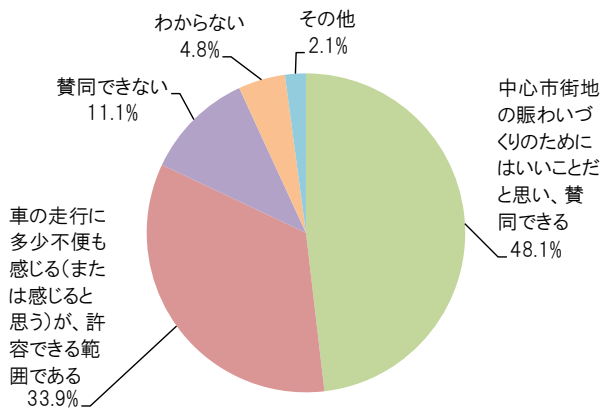
社会実験期間中の来訪者からは、「放置自転車の無い歩行者空間」、「ウッドデッキ」、「賑わい空間」といった社会実験の空間づくりについて高い評価が得られました。特に、ウッドデッキのくつろげる空間づくりや、放置自転車の抑制等は積極的な評価がされています。

車線減少や速度抑制については、「賛同できる」、「許容できる」との回答が8割を超えました。

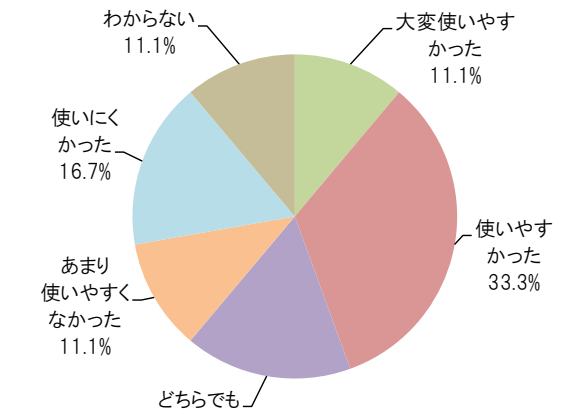
活動プログラムを実施した団体等からは、空間について「大変使いやすかった」、「使いやすかった」と評価する意見が4割以上を占めました。



○社会実験の空間づくりの評価について【来街者】



○走行車両の車線減少と速度抑制について【車での来訪者:N=228】



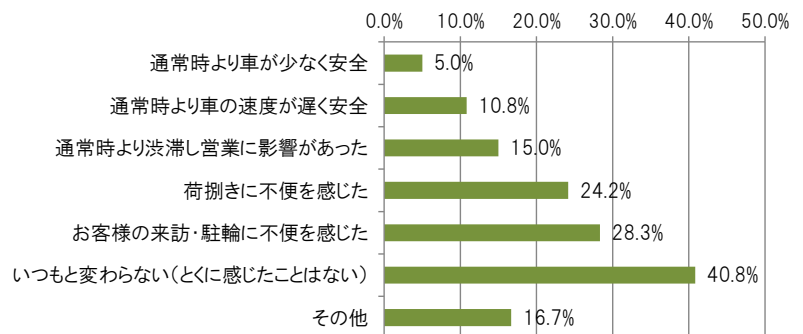
○空間の使いやすさについて【活動実施団体:N=18】

商店街でのお客様の往来・荷捌きへの対応が今後の課題として挙げられました

商店街の方々へのアンケートでは、社会実験での取り組みに対し、「放置自転車の抑制」に効果があった、商店街の人通りについては通常と変わらなかったという意見が半数を超えましたが、スタンプラリー参加店舗に限っては、来街者の増加につながった、お店のPRになったという回答が半数を超えました。

一方で、交通規制については、「いつもと変わらない」という回答に次いで、「荷捌きに不便」、「お客様の来訪や駐輪に不便」を感じたという回答が多くなりました。

こうした結果を受け、社会実験の結果報告を兼ね、商店街の方々との意見交換会を実施しました。（平成27年1月21日に実施）



○社会実験の交通規制の評価について【商店街:N=120(複数回答)】

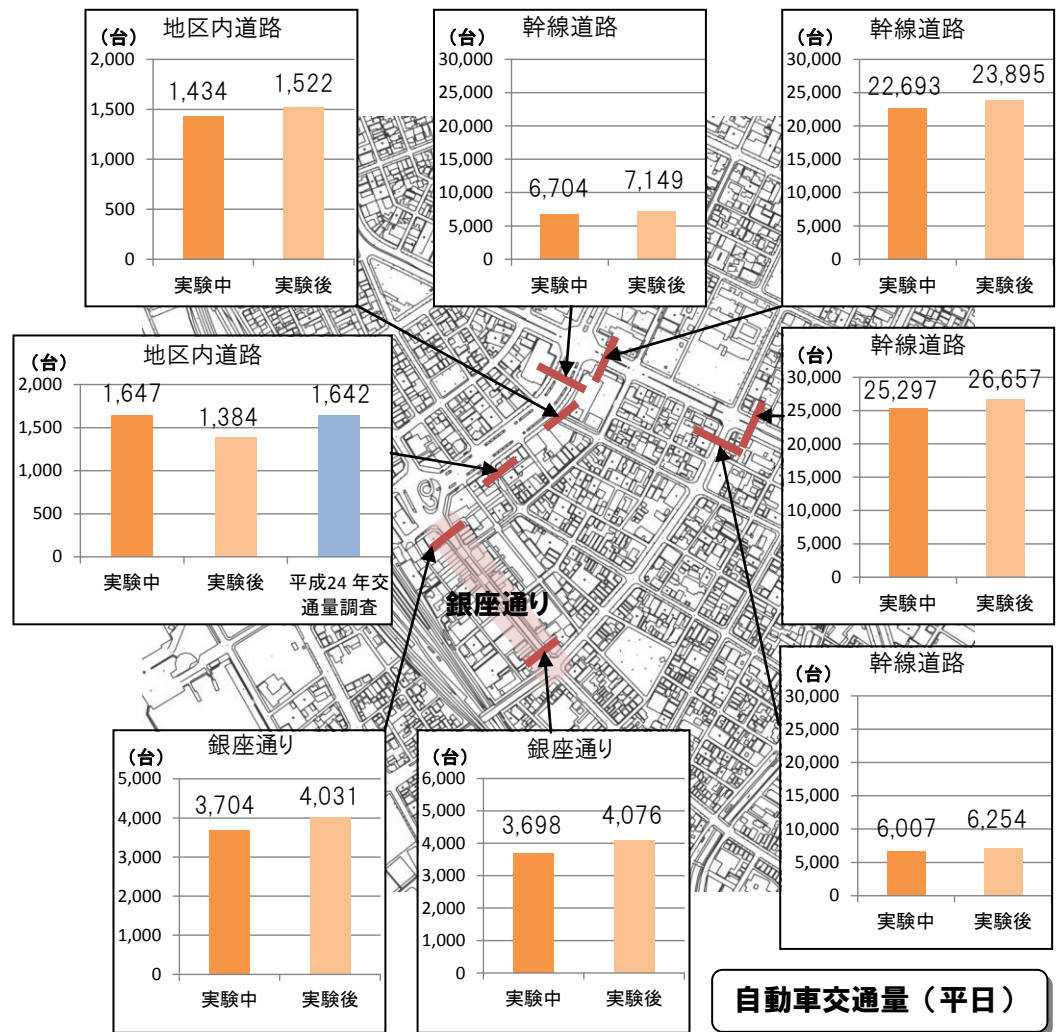
銀座通り及び周辺道路への自動車交通の影響はほぼありませんでした

○自動車交通量について

銀座通りについては、社会実験期間中、社会実験後（通常時）より1割程度交通量が減少していました。

周辺の幹線道路については、いずれも実験中よりも社会実験後（通常時）の方が多くなりました。

周辺の地区内道路については、場所により普段より2割程度交通量が増加していました。ただし、H24年に調査したデータと比較すると、ほぼ同じ交通量であり、H24年時点で特段混雑が発生していない状況から考えると、今回の社会実験でも特に混雑は発生していなかったといえます。

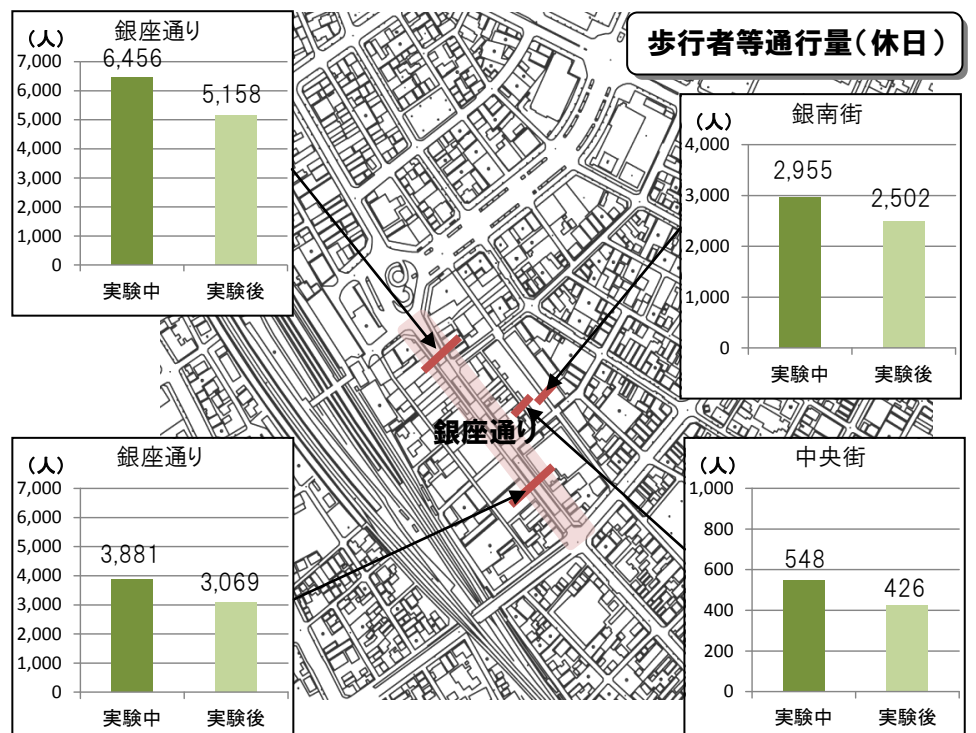


銀座通り周辺での歩行者等通行量は増加しました

○歩行者等通行量について

銀座通りの通行量は期間中、平日は特に変化はなく、休日は2割程度通行量が増加していました。

銀南街は平日、休日ともに通行量が増加しており、銀南街は通常の休日より2割程度通行量が増加し、中央街は3割程度通行量が増加していました。



7 社会実験結果の取りまとめと今後に向けて

検討委員会で社会実験検証の取りまとめを行い、今後に向けた方向性について意見を交わしました。

今後も歩行者優先道路化の実現に向け、引き続き検討を進めていきます。



■社会実験の獲得目標の検証

獲得目標 1 歩行者優先道路化道路の空間のあり方の検証

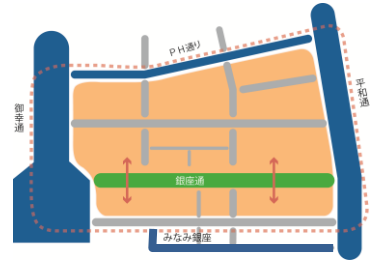
来街者や活動参加者から「居心地のよい空間づくり」について高い評価を得ることができ、中心市街地でのこのような空間へのニーズが確認できた。

また、多くの活動希望者を発掘でき、空間活用に向けた高いポテンシャルも確認できた。

方向性 1

歩行者優先道路化まちづくりの将来像の共有

「歩行者優先道路化で何をを目指すのか、中心市街地をどんなまちにしていくなのか」を市民や商店街等関係者にわかりやすい姿で示し、共有を図っていきます。



獲得目標 2 集客効果と周辺交通への影響の検証

休日を中心に歩行者通行量の増加(周辺も含めて1~4割)が確認でき、まちなかへの集客効果が実感できた。交通規制の実施に伴う周辺への影響もほとんど見られなかった。

歩行者が通行・横断しやすい空間づくり、タクシー・物流車両等との共存のあり方は今後の課題となった。

方向性 2

銀座通りでの具体的な歩行者優先道路化空間イメージ・ロードマップの作成と共有

社会実験の結果を十分に踏まえ、「銀座通りでどのような空間を創出し、どのようなステップで歩行者優先道路化を図るのか」の具体像を検討していきます。



歩道拡幅した空間の例
(長野市中央通り)

獲得目標 3 中心商店街での回遊性の促進・検証

中心商店街の回遊については、スタンプラリー実施店舗で来店者が増加し、来街者の回遊行動を確認できた。

日常時(平日)の来街者が少なく、実施店舗以外の店主からは「通常時と変わらない」という評価も多く、引き続き、中心商店街への回遊性づくりに取り組んでいく必要がある。

方向性 3

商業者等との合意形成と、歩行者優先道路化を契機としたまちづくりの機運醸成

「元気なまちがあってこそその歩行者優先道路」であり、この社会実験をきっかけに店主等とより緊密に連携を図りながら、まちづくりを進めていきます。



お問い合わせ先

周南市 中心市街地整備部 中心市街地整備課

〒745-0035

周南市有楽町 23 番地 近鉄徳山ビル 2 階

TEL: 0834-27-0070

FAX: 0834-27-0065

Email: chushin@city.shunan.lg.jp